

患者参画の質を高める7つの基準

1. 目的の共有:

- ・ 患者参画の取り組みの目的を共有します。
- ・ いろいろな立場の参加者の価値観、期待、目的を確認します。
- ・ 共有した目的を文書にします。

2. 尊重と参加のしやすさ:

- ・ すべての参加者はお互いを尊重しましょう。
- ・ 誰もが参加しやすいように、会議の時間、場所、わかりやすい資料、情報保障、個人情報保護などに配慮します。
- ・ 予算や支払い(報酬)等金銭的なことをあらかじめ検討しましょう。

3. 関係者の代表性:

- ・ 患者さんのニーズを反映した結果を得るためにだれが参加するべきか、どんな適性(専門知識、経験など)が必要か検討します。
- ・ 参加する患者さんは、多様な意見を代表できる人が望ましいです。
- ・ 製薬企業や行政などの組織はいろいろな専門分野があります。どの部門からの参加が望まれるか検討します。

4. 役割と責任:

- ・ 役割と責任を参加者全員で決め、文書にしましょう
- ・ 参加者は自分を含め他の人の責任と役割を理解しましょう。
- ・ 定期的に見直しします。

5. 参画するための能力:

- この取り組みの参加者にはどのような経験、知識が必要か検討しましょう。
- ・ その経験や知識が発揮できるために、どのような準備や支援が必要か考え実施します。
- ・ 参加者の立場や能力に応じた研修を実施します。



6. コミュニケーションと文書の透明性:

- ・ オープンで誠実なコミュニケーションに心がけましょう。
- ・ 会議や文書は、専門的な言葉を少なくし、すべての参加者に分かりやすくします。
- ・ タイミングよく情報を発信し、情報共有しましょう。

7. 継続性と持続可能性:

- ・ 活動の最初から終わった後までを想定した活動計画書を作ります。
- ・ 行ったことの経過や結果をフィードバックしましょう。
- ・ この活動を一度きりにするのではなく、学んだことを次の活動や他のチームが活用できるようにしましょう。

結果と影響:

取り組みによってもたらされる成果と影響を想定します。

- ・ この活動の成果と影響を集める方法を予め検討します。
- ・ この活動がくすりの開発にもたらす成果と影響を考えます。
- ・ この活動が患者さんにもたらす成果との影響を考えます。
- ・ この活動に係る関係者(患者さん以外の)にもたらす成果と影響を考えます。

参考例)患者さんにもたらす成果と影響

- ・ 患者さんが求めるくすりの開発が早まる。
- ・ 患者目線の解決策につながる。
- ・ 臨床試験段階にある新薬の情報が分かるようになる。
- ・ くすりの開発に関連する治療方針や治験に関する知識が向上する。
- ・ 新しい治療法の選択肢が増える。
- ・ 患者さんの薬物療法や治療のアドヒアランスが向上する。

i

ⁱこのリーフレットは、PFMD の「Patient Engagement Quality Guidance」の日本語訳「より良い患者参画を行うためのガイダンス 概要版」から抜粋して作成しました。詳しくは翻訳文を参照ください。(NPO 法人 JPPaC PCM プロジェクト 2023 年 10 月更新)